

# CAN BUS SIGNAL ANALYZER DL7200

CANバスの物理層解析用波形測定器

CAN BUS SIGNAL ANALYZERは、バスに流れるデータによってトリガをかけることができ、容易に目的のフレームを捕捉することができます。また、物理層の信号波形とコード化された解析結果を同時に表示することができるので、データ内容と波形との関連が明確になり、開発効率を飛躍的に高めることができます。

本機能はデジタルオシロスコープDL7200がベースになっています。DL7200は最高サンプリングスピード2 GS/s、アナログ帯域500 MHz、最大メモリ長16 MWと、CANバス信号解析に十分な性能を有しています。

## [主な特長]

対応CAN Bus仕様

- ・ ビットレート：  
33.3 kbps, 50 kbps, 100 kbps, 125 kbps, 250 kbps, 500 kbps, 1 Mbps (Hi-Speed CAN/Low-speed CAN)
- ・ メッセージフォーマット：  
標準 (11 bit ID) / 拡張 (29 bit ID)
- ・ 入力方法：  
CAN\_H, CAN\_L信号を差動プローブで入力

CAN Busトリガ機能

- ・ Start of Frameトリガ
- ・ IDフィールドトリガ  
標準または拡張メッセージフォーマットが選択できます。また、4種類のIDが指定でき、OR条件でトリガをかけられます。
- ・ RTRトリガ  
リモートフレームでトリガをかけられます。
- ・ Dataフィールドトリガ  
1 ~ 8 byteまでのデータを設定できます。指定されデータ > or < のトリガ設定が可能です。
- ・ Errorフレームトリガ  
アクティブエラーフラグでトリガをかけられます。

CAN Bus解析機能

最大16Mワードのロングメモリに取り込まれたCANバス上の波形データを時系列で解析し、ID、Dataの解析結果とACKの有無を波形データと共にリスト表示します。リスト上のカーソルに対応したフレーム波形が、ズーム画面に自動的に表示されるので、解析結果を見ながらバス信号が観測できます。



詳細表示モードでは、フレームの種類、トリガ点からフレームまでの時間、CRCデータ、Errorフレームの場合はエラー情報を併せて表示できます。

各ビットのステートを判断するために、UpperとLowerの2値のスレッシュホールドレベルを設定でき、不定値の解析が可能です。

- ・ 解析可能フレーム数：最高8000フレーム
- ・ 解析結果表示：波形&解析リスト表示  
詳細解析リスト表示
- ・ 解析補助機能：データサーチ機能/フィールドジャンプ機能/スタックビット演算機能

## [主な仕様]

入力チャンネル：アナログ4チャンネル+デジタル16 bit (オプション)

周波数特性：50 入力時 : DC ~ 500 MHz

1 M 入力時 : DC ~ 400 MHz

最高サンプルレート：インターリーブON時 : 2 GS/s  
インターリーブOFF時 : 1 GS/s

等価サンプルレート：2 GS/s (インターリーブON時)

最大記録長：インターリーブON時 16 Mワード  
インターリーブOFF時 8 Mワード

解析機能：

サーチ&ズーム機能：

エッジ、シリアルパターン、パラレルパターン、パルス幅、オートスクロール、SPI、CAN

ヒストリサーチ機能：ゾーン、パラメータ

外形寸法：373 mm(W) × 210.5 mm(H) × 306 mm(D)

質量：約 9 kg (プリンタ含む, ロジック入力含まず)

問い合わせ先：カスタムサポートセンター

TEL : 0120-137046